

2/18 町民サービスの向上と地域社会の活性化を目指す 「愛南町と日本郵便株式会社との包括的連携に関する協定」締結式

愛南町と日本郵便株式会社は、それぞれが有する人的・物的資源を有効に活用して、町民サービスの向上と地域社会の活性化などを実現するため、役場本庁で「愛南町と日本郵便株式会社との包括的連携に関する協定」を締結しました。

町と町内の郵便局は、これまでも地域の安全や災害時における協力など、個別の協定を締結し連携してきましたが、今回の包括的連携協定の締結により、地域経済の活性化や観光等情報発信など、さらに幅広い分野において連携を強化することを目的としています。

日本郵便株式会社を代表して協定書に署名をした御荘郵便局の梶原一志局長は、「協定の締結により、地域に住まれている方の利便性やサービスがより一層良くなることを期待します」と話しました。

協定式終了後には、町のブランディングロゴマークとキャッチコピーが入ったステッカーが郵便車両に貼られました。



▲左から 清水雅文町長、梶原一志局長



▲町ブランディングロゴマークが貼られた郵便車両



2/28 郷土資料館で学習 城辺小学校の児童が暮らしの移り変わりを学ぶ

城辺小学校3年生32人が社会科の学習のため、一本松地域にある郷土資料館を訪れました。児童たちは町教育委員会生涯学習課の松本安紀彦課長補佐から、展示されている生活道具や昔の人の暮らしについて説明を受けました。

児童たちは昔の人たちがお米を作って食べるまでの流れを学び、効率よくお米作りができるよう考えられた農機具から昔の人の知恵と工夫を体感し、知識を深めました。児童は、「田植えや収穫をするときの機具がたくさんありました。今の便利なものと比べると、昔の人の大変さがすごく分かりました」と感想を話しました。



▲農機具について説明する松本安紀彦課長補佐



▲昔の機具を観察して記録をする児童

地域の活性化で協力

学校法人松山大学と愛南町による「連携協力協定調印式」



▲左から 清水雅文町長、新井英夫学長



役場本庁で、学校法人松山大学と愛南町による連携協力協定の調印式が行われました。

大学は新型コロナウイルス感染症の影響により、需要が落ち込んだ愛南の養殖マダイの消費回復のために、町と連携してきました。学生が漁場・加工場を撮影した動画の配信やSNSを活用した広報活動のほか、マダイを使ったカレーの商品開発にも携り、それらの新商品を賞品としたeスポーツ大会を開催するなど、県外への需要喚起や販売促進のほか、町全体の知名度向上を図る情報発信に協力していただきました。

この協定は、大学と町が緊密に連携協力して、産業振興や地域活性化などの課題に取り組み、活力ある豊かな地域社会の発展に貢献することを目的としています。

松山大学の^{ひであ}新井英夫学長は、「今後も町の地域活性化と地域創生に貢献できるよう努めていきたい」と話しました。

地域おこし協力隊 活動日記

「特産品開発を始めました」

皆さん、こんにちは。商工観光課地域おこし協力隊の関根麻里です。

地域おこし協力隊として着任し、はや1年が過ぎました。1年目は愛南町を知りたい!という思いから、いろいろな方の話を聞きに町内を駆け巡りました。また、カレー販売の経験から全てを一人ですることの大変さを学び、いろいろな方から協力していただけることへの感謝の気持ちと、人との繋がりにうれしさを感じています。

2年目を迎え今年度はさらなる飛躍を目指して、特産品開発に取りかかり始めました。アイデアを出し、良さそうと思うものから順に試作をしています。

現状はクッキーを黒焦げにしてしまったり、カレーの味が濃かったり、薄かったりと失敗だらけです。しかし、これまでの経験を生かしてなぜ失敗したのかを考え、試食していただいた方たちの意見を参考に、試作や改良を重ねています。「失敗は成功のもと」と思いながら、より質の高い特産品を作っていけたらと考えています。

特産品開発は始まったばかりでいつお披露目できるか未定ですが、商品をきっかけに町のPRができるように進めていきたいです。作って終わりではなく、そこからがスタートとなるということを忘れずに販売先や活用方法を含めて、自分の作った料理をもっと多くの人に食べてもらえるよう継続して販売できる取り組みを目指していきます。

Instagram @biyabiyagram で日々の活動を発信中です。いいね、フォローも合わせてどうぞよろしくお願いします!



▲試作中の縄文クッキー(上)と料理教室用に制作したカレーおにぎり(下)